

防災公園内に 「ソコラテ」整備中

令和8年6月にオープン予定の
スポーツコミュニティプレイス。
公募で愛称は「ソコラテ」に決定！

平時はスポーツと防災学習施設として、災害時は避難所や支援拠点として機能します。

市議会の動き：

○ 第3回定例会 令和7年度補正予算
令和6年度決算認定 等

第3回定例会のココに注目！



議案第56号(専決処分)、64号 令和7年度一般会計補正予算(第5号)

TOPIC #1

価格高騰対策、干ばつ対策、水道料基本料金減免

低所得者への価格高騰緊急支援給付金、干ばつ対策として農業者や養鯉業者へのポンプの購入や借り上げ代などの支援を決定。水道料金のうち基本料金の10月、11月検針分の減免などを可決。

議案第64号 令和7年度一般会計補正予算(第5号)

TOPIC #2

公共交通対策事業：JR小千谷駅舎バリアフリー化

公共交通対策事業として、15,032千円の一般財源を投入。本格的な高齢社会を迎える中、JR小千谷駅は、1日当たり2千人の乗降客が利用しているが、エレベーターや多目的トイレなどがなく、駅舎のバリアフリー化が課題となっている。小千谷市では、令和6年にまち歩き点検調査を実施し事業展開を進めるもの。

(主な質疑)

- Q プラットホーム跨線橋のエレベーター設置に伴う市の負担金の比率は。
- A 国、市、JRでそれぞれ3分の1の負担となる。
- Q JR基準での積算金額は低くなるものなのか。積算検証は市でも対応するのか。
- A 国の積算を参照し設計担当の意見を聞きながら対応することとしたい。
- Q 市民のニーズでもある小千谷駅のトイレに関して進んでいるのか。
- A 引き続きJRと協議を進めていく。

まち歩き点検調査(主な指摘事項)

	指摘箇所	指摘事項
小千谷駅舎	通路・階段	・積雪時などの利用への配慮が必要。 ・段鼻部の色分けが不明瞭。
	エレベーター	・エレベーターの設置が必要(車いすの動線に配慮した設置)。
	トイレ	・駅舎外からも利用できる多目的トイレが必要。
駅前広場	歩道・階段	・駅前広場～駅舎間の段差が大きい。 ・冬季の融雪が不十分。 ・点字ブロックの途切れ。

議案第71号 令和6年度一般会計歳入歳出決算認定

TOPIC #3

令和6年度一般会計歳入歳出決算認定

一般会計の決算規模は、前年度に比べ歳入が0.8%減少、歳出が2.7%増加。実質収支は黒字となっているが、財政調整積立金等を加味した実質単年度収支は592,610千円の赤字となっている。

(主な質疑)

- Q 実質単年度収支が悪化しているが、今後の見込みは。
- A 投資的収支部分が膨らんでいる。令和7年度末がピーク。その後、ランニングコストとして非投資的経費が発生してくる。財政指標を注視しながら取り組んでいく。
- Q 財産運用収入の利子及び配当金が上振れしている要因は。
- A 預金利子は大きくないが、金利が上昇局面に入り、令和6年度から国債や地方債の買い付けをしており、その収益が出ている。令和7年度もリスクの少ない短期債を買い付けている。

第 3 回 定 例 会 議 決 結 果 (8月29日から9月24日まで開催)

議案番号等	議 件 名	議決状況	議決結果
条 例	議案第57号 小千谷市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例の制定	全会一致	原案可決
	議案第58号 小千谷市議会議員及び小千谷市長の選挙における選挙運動用ビラの作成の公営に関する条例及び小千谷市議会議員及び小千谷市長の選挙における選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
	議案第59号 小千谷市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
	議案第60号 小千谷市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
	議案第61号 小千谷市都市公園条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
	議案第62号 小千谷市水道条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
	議案第63号 小千谷市下水道条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
予 算	議案第56号 専決処分（令和7年度小千谷市一般会計補正予算（第4号））	〃	承認
	議案第64号 令和7年度小千谷市一般会計補正予算（第5号）	〃	原案可決
	議案第65号 令和7年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	〃	〃
	議案第66号 令和7年度小千谷市介護保険特別会計補正予算（第1号）	〃	〃
	議案第67号 令和7年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	〃	〃
	議案第68号 令和7年度小千谷市ガス事業清算特別会計補正予算（第1号）	〃	〃
	議案第69号 令和7年度小千谷市水道事業会計補正予算（第1号）	〃	〃
	議案第70号 令和7年度小千谷市下水道事業会計補正予算（第1号）	〃	〃
決 算	議案第71号 令和6年度小千谷市一般会計歳入歳出決算認定	賛成多数	認定
	議案第72号 令和6年度小千谷市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	全会一致	〃
	議案第73号 令和6年度小千谷市介護保険特別会計歳入歳出決算認定	賛成多数	〃
	議案第74号 令和6年度小千谷市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	〃	〃
	議案第75号 令和6年度小千谷市ガス事業会計決算認定	全会一致	〃
	議案第76号 令和6年度小千谷市水道事業会計の利益の処分及び決算認定	〃	原案可決 認定
	議案第77号 令和6年度小千谷市工業用水道事業会計の利益の処分及び決算認定	〃	〃
	議案第78号 令和6年度小千谷市下水道事業会計の利益の処分及び決算認定	〃	〃
その他	議案第79号 小千谷市道路線の認定	〃	原案可決
	議案第80号 小千谷市教育委員会委員の任命（小林智光氏）	〃	同意
	議案第81号 小千谷市固定資産評価審査委員会委員の選任（風間隆司氏）	〃	〃
請 願	請願第1号 「私立高校の学費負担軽減と専任教員増を促進するため、私学助成の増額・拡充を求める意見書」の提出を求める請願	賛成多数	採 択
発 議	発議案第2号 私立高校の学費負担軽減と専任教員増を促進するため、私学助成の増額・拡充を求める意見書	〃	原案可決

議 員 賛 否 の 状 況 (採決において賛否が分かれたもの)

議案番号等	議決結果	賛成	反対	廣井良宣	佐藤勝義	和田忠篤	佐藤瑞穂	高木健太	平澤智	阿部守男	内山博志	上村行雄	住安康一	駒井和彦	森本恵理子	佐藤隆一	久保田陽一	長谷川有理	田中淳
議案第71号	認定	14	1	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—	○
議案第73号	認定	13	2	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	—	○
議案第74号	認定	14	1	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—	○
請願第1号	採 択	8	7	×	×	×	×	○	×	○	○	×	○	○	×	○	○	—	○
発議案第2号	原案可決	10	5	×	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	—	○

※ ○は賛成、×は反対、議長（長谷川有理）は採決に加わりません。

常任委員会報告

総務文教委員会

委員長 駒井 和彦

本委員会に付託されました議案7件、及び請願1件につきまして慎重に審査した結果、議案7件を認定や可決すべきもの、請願1件を採択しないものと決しました。

○議案第64号 令和7年度一般会計補正予算(第5号)

意見 10款教育費において、一般財源から地方債(デジタル活用推進事業債)の活用を行ったことについては、非常に素早い対応である。地方債の活用にあたっては、利率が上がってきていることを踏まえながら、引き続きスピード感を持ってやっていただきたい。

○議案第71号 令和6年度一般会計歳入歳出決算認定

意見 2款総務費において、議長車について、稼働日数が少ないことから運用について検討いただきたい。

6款農林水産業費の森林環境譲

与税において、その使い方について、林道の補修、舗装だけでなく、森林整備の担い手人材の育成と確保、木材利用の推進と啓発、自治体間連携の取組み等研究していただきたい。

○請願第1号 「私立高校の学費負担軽減と専任教員増を促進するため、私学助成の増額・拡充を求める意見書」の提出を求める請願意見 今の県立高校の現状を把握した上で意見書の作成をお願いしたい。また、今後同様の請願が出された際には、県立高校の現状も調査していただきたい。

討論 請願の文面から見ると、学費の無償化の意味が曖昧、意図的と感じるため、賛成しかねる。

請願の趣旨としては、私立高校の学費負担の軽減と専任教員増を促進するための私学助成の増額拡充を求めるものであり、この趣旨というのは大事なことであり、賛成。との発言があり、起立少数により本請願は採択しないものと決しました。

民生産業委員会

委員長 住安 康一

本委員会に付託されました議案16件について、可決及び認定すべきものと決しました。

○議案第61号 小千谷市都市公園条例の一部を改正する条例の制定 質疑 防災公園の施設名、周知方法及び所在地について。

○議案第63号 小千谷市下水道条例の一部を改正する条例の制定 質疑 条文の追加理由について。

○議案第70号 令和7年度小千谷市下水道事業会計補正予算(第1号) 質疑 テレビ受信料を計上した経緯について。

○議案第72号 令和6年度小千谷市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定 質疑 高額療養費の今後の見込みについて。

○議案第73号 令和6年度小千谷市介護保険特別会計歳入歳出決算認定 討論 介護報酬改定の影響を受け、

支援を求める介護事業所の声を拾い、当市としても可能な支援をするべきだったと考え、反対。

○議案第74号 令和6年度小千谷市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定 討論 この制度は年齢で区別し、世代間を分断する制度だと考えます。また、健康管理をするためにも人間ドックは大切だと考え、そのためには経済的負担を軽減し、多くの希望者が受診できるようにすべきです。支援の引き下げは時代に逆行していると考え、反対。

○議案第76号 令和6年度小千谷市水道事業会計の利益の処分及び決算認定 質疑 経年管の更新について。

○議案第77号 令和6年度小千谷市工業用水道事業会計の利益の処分及び決算認定 質疑 企業債の返済見込みについて。

○議案第79号 小千谷市道路線の認定 質疑 片貝町地内の認定経過及び今後のインフラ整備等について。

田中 淳 議員



今後の医療支援と対応について

質問 J A厚生連小千谷総合病院に対する医療支援と今後の対応について、令和7年度になってから情報が少ないが、現在の状況を伺います。

答弁 厚生連に対しての財政支援については、令和7年度から令和9年度までの3年間は当市を含めた6市が継続して支援していくことを申し合わせています。

また、病院の運営母体については厚生連の中期経営計画での事業方針において「厚生連による現状を維持しての経営が困難と判断された場合には、運営主体の移管や他法人等への譲渡を検討する」とされています。

質問 病院の譲渡についての厚生連の考えは。

答弁 病院の経営は大変厳しい状態になっており、このままでは事

業継続ができず、来年には資金が枯渇してしまう状況であり、現段階ではこれ以上の答弁は控えさせていただきます。

当市における農業の課題と対策について

質問 農業用水の水源確保のための支援策についての考えは。

答弁 山間地における農業用ため池の水源確保対策については、防災上の観点も意識しながら、新潟県とともに実効性のある方策を検討してまいります。消雪用井戸の活用については、今夏も新潟県や地域の関係者に協力を得て、県道の3ヶ所と市道の3ヶ所で保水を実施しました。

質問 井戸に直結する防災用バルブベントの農業用水確保の考えはあるのか。新潟県の対応を含め答弁願います。

答弁 防災用バルブベントの活用については現在、研究をしている状況。新潟県も県道の消雪井戸利用について対応していただいており、実績として真人地内の県道で消雪パイプを利用した渇水対策を行っています。

住安 康一 議員



家族介護者の支援について

質問 認知症施策や家族介護者支援の一環として、ユマニチュードの導入・普及を検討すべきではないか。また、市民や介護者、専門職や救急隊員を含む市の職員を対象としたユマニチュード研修や講座を開催すべきではないか。

答弁 ユマニチュードの視点を意識しながら関係機関と意見交換する中で、活かせる部分を検討したい。また、研修や講座の開催については、まずは医療介護関係者などの専門職を対象とした研修や、認知症サポーター養成講座の受講者に対するフォローアップの機会など、まずはそのような場を活用してユマニチュードの考え方を共有し、内容の充実につなげたい。

質問 オレンジガイドを「要介護者中心の情報」から一歩進めて、介護する家族の健康・就労・経済支援・生活支援に関する情報を強化し、ケアラー手帳的な要素を取り入れるなど、介護者にとって実用性の高いオレンジガイドに改善していくべきではないか。

答弁 議員ご提案の介護する家族の健康、就労、経済支援、生活支援に関する内容を取り入れることについては、オレンジガイド全体のボリュームや分かりやすい構成などの視点を含めて、関係機関の意見を参考に研究したい。

質問 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業の導入を検討すべき。

答弁 情報収集を行いながら研究する。

質問 ケアラー支援条例制定を検討してはいかがか。

答弁 条例制定について介護に関わる事業者や関係機関から要望や協議等を受けた実績がないことから、今後の研究課題とする。

質問 家族介護者を対象に介護研修を実施するなど、研修体制を整備し、家族介護者が安心して介護に取り組める環境を構築することが重要。見解は。

答弁 実情に応じて各機関が実施している事業やサービスを有効にご利用いただけるよう周知する。

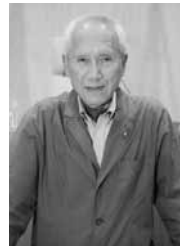
市政の内容を聞く

一般質問

市政の内容を聞く

一般質問

佐藤 隆一 議員



小千谷市地球温暖化対策 (区域施策編) について

質問 小千谷の再エネ設備は、県内自治体の最下位ですが、地熱・小水力など、検討は十分ですか。

答弁 費用対効果の観点から、導入は難しいと考えています。

質問 市は、2030年にCO₂を46%削減(2013年比)し、2050年には実排出ゼロを目指すと宣言しました。現在の計画で目標達成は可能でしょうか。

答弁 可能と考えています。

質問 国の原発回帰方針から、再生可能エネルギーの普及が進んだ場合、系統接続の切断が起こるなど、再エネ普及の阻害要因になる可能性が高まるのではないかと危惧します。そうしたことは起きないと考えているのでしょうか。

答弁 国は再生可能エネルギーを主力電源にするとしており、導入拡大を進め系統接続を増強するこ

とで課題は回避できると思っていることから、問題はないと考えています。

質問 再生可能エネルギーの普及計画を示してください。

答弁 国の補助制度や利用者アンケート結果の周知を図り、令和6年度からは新潟県の太陽光パネル支援事業と連携して取り組みを拡大しています。

質問 燃やして埋め立てるゴミ処理事業の転換はどう進めるのでしょうか。

答弁 これまでの答弁でお答えした通り、現在の分別にもとづいた減量化を進めます。また、事業系ごみの減量化とリサイクル品の検討を行っています。また、リサイクル広場の市街地移転については考えていません。市民から大原に来てもらいたいと考えています。さらに、年

2回の古着回収時にリサイクル広場を実施したいと考えています。



分別の実際

内山 博志 議員



原発事故が起きたとき避難先の受け入れ体制はどうか

質問 避難場所は被災者の尊厳が確保できるスフィア基準に適合するか。

答弁 国・県の指針確保に努めるが困難なときは、国・県と連携し改善に努める。

質問 自家用車での避難が基本だが避難先の駐車場所の確保はどうか。

答弁 国が確保することになっていくが具体化されていない。

質問 受け入れ体制がないまま原発再稼働はできないのではないかと。避難先の受け入れ状況に対する市の認識はどうか。

答弁 スフィア基準に適合する避難所確保に加え、豪雪地帯で課題は多い。安心できる避難の取り組みを国が主体的に行うべきだ。

市の非正規職員(会計年度任用職員等)の待遇改善について

質問 給与改定時期は、正職員と同様4月まで遡及すべき。

答弁 そのように検討している。

質問 勤勉手当(ボーナス)など正職員と同様月数にすべき。

答弁 直ちに同様にするのは難しい。

質問 再度任用の回数制限は安心して働くため廃止すべき。

答弁 来年度に向け検討する。

質問 給与改定、昇級も正職員と同様に扱うべき。

答弁 これまで定期昇給はなかったが、一部加算はあった。他市では給料表を活用し、仕組みを設けているところがある。報酬額、昇給制度について検討する。

猛暑から命を守るエアコン購入補助制度について

質問 35℃を超える災害級の暑さが珍しくなくなった。他市でも広がっている経済的理由で入れ替え

等購入できない世帯に補助制度を。
答弁 自助努力が基本。補助制度創設は考えていない。

佐藤 勝義 議員



「ホントカ。」1周年の振り返りと今後について

質問 「ホントカ。」の一年を振り返り、運営面において市長としての評価と、本施設を拠点とした益々の繁栄に向けた今後の発信はどのようなしていくのか伺う。

答弁 昨年9月28日のオープンから一年間で35万人を超える来館者数となりました。市民、行政や事業者などの共創の取組が行なわれています。オープンから施設を活用したイベントは、39件となり、市主催が26件。市民団体等による主催が13件と、共創の理念に沿った利用が浸透しつつあると感じています。また、中心市街地の活性化につながる取組を具体化し、当市の未来を創るための重要拠点と考えており、市外、県外にも積極的に発信してまいりたい。

質問 「ホントカ。」は建築構造の特異性から、他の施設に比べ多

額の計画修繕費を要すると推測される。計画修繕の項目や修繕費の今後の見込みについて伺う。

答弁 オープンから10年後までに屋内天上の和紙の補修や屋上防水、また衛生設備の更新等で1億円の費用を見込んでおり、さらに20年後には空調機器、消雪井戸のポンプや雪冷房設備等の更新にて2億8千万円を見込んでいます。

質問 「ホントカ。」では、再生可能エネルギー活用に注力している施設である。太陽光発電・地中熱の利用・雪冷熱利用。この3点の削減効果を伺う。また、そのメリット・デメリットの公表と、市内企業へのアプローチや公共施設への今後の展開を伺う。

答弁 効果については、約1年間で、約15tのCO₂排出量の減少につながっており、コスト面では131万円の節減効果であった。これらは、再生可能エネルギーの普及拡大を目的として導入していることから、多くの市民や企業の皆様から関心を持っていただけるよう、効果的かつ分かりやすい公表方法を検討し、速やかに実施したいと考えています。

和田 忠篤 議員



小千谷市人口ビジョンについて

質問 若い女性の人口減少要因と対策について伺います。

答弁 若い女性の人口減少は、地域経済とまちの活力を失う大きな要因であることから、不均衡な人口構造を改善し、まちを持続させていくためには、女性や若者が魅力を感じる施策を充実させて人口の流出を防ぐとともに、転出した若者を呼び戻し、定住につなげる施策を展開する必要があります。

質問 若者流出の防止策と呼び戻し策について伺います。

答弁 SNS等を活用した情報発信によって若者とのつながりをつくり、U・Iターンを促進するとともに、地方でも仕事ができる多様な環境づくりや住宅支援等の施策を推進しています。

質問 出生率・出生数の見通しと向上策について伺います。

答弁 出生率の向上や出生数の回

復については、これまでも様々な対策を講じてまいりましたが、明確な成果を得る状況には至ってはおおりません。

質問 転入促進・転出抑制による社会増策について伺います。

答弁 社会増を実現するための具体的な施策については、地域産業に関する情報発信と当市出身の学生の郷土愛の醸成などによるU・Iターンの一層の推進、産業振興等による安定した働く場の創出、暮らしやすく安全安心なまちづくりの推進など施策を網羅的に展開してまいります。

質問 2050年の人口推計の受け止めと市の判断を伺います。

答弁 現状のまま推移した場合は、最も人口減少が進むと予測している加速型人口減少の推計に近い状況になる可能性があると危惧しており、市としましては、これまでの努力を超える努力を積み重ね、現状を打破する意識を持って施策を推進する必要があると考えております。人口減少対策に関連するあらゆる施策を複合的に連携させながら、市民、団体、企業と行政が協力して取り組んでまいります。

市政の内容を聞く

一般質問

市政の内容を聞く

一般質問

久保田 陽一 議員



原発特措法対象範囲拡大について

質問 特措法の対象範囲拡大が当市にどのような恩恵をもたらし、どのような効果が期待されるか。

答弁 当市が特措法の適用対象範囲に含まれることにより、道路及び義務教育施設の整備に対し、国の負担割合がかさ上げされるなど、財政負担が軽減される。これに伴い、避難道路や避難所となる義務教育施設の整備を進めやすい状況となり、市民の安心安全につながるものと考えている。

質問 電源三法交付金制度の見直しについても引き続きUPZ自治体と連携し国へ強く要望すべき。

答弁 今後も新潟県及びUPZの市・町と連携し、柏崎刈羽原子力発電所のUPZにおける課題を国に伝え続け、雪国の切実な特殊事情に対する理解を得て、早急に適切な対応策を講じていただくよう、全力で取り組んでいく。

外国人転入による諸課題について

質問 生活習慣や文化の違いから生じるトラブルについて、どのような相談が寄せられているか。

答弁 外国人住民の家庭ごみの分別誤りが多く、ごみステーションに排出された家庭ごみが回収されずに困っているといった相談が、町内会から複数回よせられている。

小中学校体育館の環境改善について

質問 スポットクーラーや冷風機、常設型エアコンを有利な起債等を活用しながら早急に設置すべき。

教育長答弁 常設型エアコンについて、国の空調設備整備臨時交付金や学校教育施設等整備事業債を活用しながら計画的に整備を進めたいと考えている。

質問 遮熱シートを各体育館に施工すべきではないか。

教育長答弁 教育委員会として遮熱シートについては効果を体感しており、学校体育館のエアコン整備にあたり、空調設備整備臨時交付金を活用する際に断熱性能の向上が求められることから、屋根を中心に使用することを検討している。

上村 行雄 議員



今後の渇水対策について

質問 災害用井戸の登録が76件あるが、今後の水源確保に向け提供依頼や新規での提供募集も必要と考える。

答弁 今夏のような渇水時における農業用水の確保に向け、消費用井戸と同様に活用策を検討したいと考えている。

質問 農業用水確保と維持について、農業用ため池や用水路の強化、そして井戸、常設ポンプの新規整備の必要性を感じるが、国の補助メニューを活用し整備する考えはあるのか。

答弁 小千谷市農業農村整備計画に基づき、県と連携し国の補助事業を活用しながら事業を順次実施する。また現在、渇水対策のアンケート調査を実施しているので、その結果も踏まえ、地域の実情に合わせた補助メニューを有効に活用してまいりたいと考えている。

ゼロカーボンシティ実現に向けた取組について

質問 新焼却処理施設整備とカーボンニュートラル実現に向けてどのようにリンクさせていくのか。

答弁 整備事業においては、国の循環型社会形成推進交付金の活用を計画している。その要件として、廃熱エネルギーを利用する施設整備が必要とされていることから、カーボンニュートラルを考慮する必要がある。最新情報を研究し、そして建設予定地の近隣町内会のご意見も参考にしていきたいと思います。

質問 バイオマスプラスチック製の市指定ゴミ袋の導入に関し、どのように検討し、判断したのか。

答弁 令和4年から令和6年にかけて製造事業所や導入自治体の事例など参考にし検討した。その中で、製作費の増額、焼却時のCO2排出量について試算した結果、わずかな削減効果であることから、現状を維持することが適当と判断した。なお、環境美化活動である「ごみゼロ運動」においては、カーボンニュートラルの意識啓発の観点からバイオマス配合のボランティア袋を作成し配布している。

森本 恵理子 議員



錦鯉を活かしたまちづくりについて

質問 「錦鯉発祥の地」「錦鯉の聖地」として国内外へ小千谷の存在感を高めていくべきでは。

答弁 唯一無二の重要なコンテンツであると認識しています。錦鯉の里を核に聖地小千谷を体感できるように取り組んでいきます。

質問 錦鯉の里のリニューアルについて今後の方針を伺います。

答弁 現施設のリニューアルと新施設の整備、両方の視点から検討を進めてまいります。

質問 すぐに取り組める展示方法の変更や体験型のコンテンツを設けることも大事では。

答弁 今できることを速やかに検討していく必要があるため、関連団体と協議を進めていきます。

おぢやまつのありかたについて

質問 年々おぢやまつりが簡素化、小規模化しているのでは。

答弁 課題があったと捉えており、改善に向け検討していきます。

質問 おぢやまつりに里帰りする人も多くいます。ひとりひとりが参加している意識を持てるお祭りとし、市の魅力発信、少子化対策、Uターン施策に直結する絶好の機会と捉え直し、事業として真剣に取り組む必要があると感じますが見解を伺います。

答弁 郷土愛の醸成に繋がる重要な事業だと思っていますし、将来のまちづくりにおいても大切なことですので、発信の仕方を工夫してまいります。

部活動の地域移行について

質問 今後10年で中学校の生徒数は半数近くに急減し、学校のありかたを検討しているにも関わらずお金と時間をかけて部活動を地域に展開していくことは妥当なのでしょうか。休日の移行までに3年かかりました。これから時間をかけて平日の移行に取り組むうちに子どもたちがいなくなるのでは。

教育長答弁 急激な部活動の廃止はリスクが高いことから段階的な地域移行が現実的であると考えています。

駒井 和彦 議員



昨今の市政・市政関連事業の現状と対応について

①J Sファンダリ破産の当市への影響について

質問 破産による当市への行財政の影響等について。

答弁 現時点で詳細は言えないが、今後の事業譲渡、解雇者の再就職が不調になった場合、市外への人口流出等で多大な影響が出ると考える。

②J A新潟厚生連小千谷総合病院について

質問 当市のさらなる支援と地域連携推進協議会の現状、今後の動きについて。

答弁 現状諸々支援している。協議会として県要望を行った。今後3年間は財政支援を継続する。

③S D G s 未来都市選定について

質問 選定によるデメリット等について。

答弁 デメリットはない。課題は

市民への浸透。

④猛暑・水不足による農業被害の抜本的対策と支援について

質問 渇水の抜本的対策について。必要支援のアンケート調査を実施中。この結果による新たな水循環システム導入検討に加え、

今後の渇水対策の方向を検討する。高温耐性品種導入等も、県や関係機関と連携、普及啓発を支援する。

観光振興における「ロケツーリズム」の推進と当市の可能性について

質問 観光資源を活かしたロケ地マップ作成や撮影支援制度の検討、官民連携のロケ推進協議会の必要性について。

答弁 可能性について、関係・連携機関と研究、検討していく。

柏崎刈羽原発再稼働について

質問 7市町提出の要望書は、再稼働容認の条件か。

答弁 条件を示したものではない。

質問 新潟モデルとは何か。

答弁 豪雪時避難等防災体制実効性向上等目途の新潟特有の仕組み。最終処分場決定無しに再稼働はあり得ないのではないか。

答弁 知事の判断を尊重する。

市政の内容を聞く

一般質問

市政の内容を聞く

一般質問

平澤 智 議員



地方創生2・0に対する

当市の対応について

質問 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生に関する、構想と実践実績等について。

答弁 テレワークステーションおぢやを拠点としてリモートワークなどの多様な働き方の実現を目指す取組、起業家育成支援事業（バルーン）を実施し、新規起業にチャレンジする若者や女性起業家の育成。おぢやつ子教育プランに基づき、ふるさと教育の実践や、おぢやしごと未来塾、ときめきめぐりあい推進事業、おぢやつつみスマイル&ファミリー事業、AIオンデマンド交通イコテなど、誰もが安心して暮らせる環境の整備を進めている。

質問 2拠点居住推進のための具体的な政策の検討について。

答弁 地域力創造アドバイザー及び副業型の地域活性化起業人を委

嘱し、市内在住の県外出身者やUターン者を対象とした調査に着手した。また、本年10月を目的に企業連携型地域おこし協力隊が着任する予定であり、2拠点居住に関する課題の整理と支援策の検討を進めることとしている。

質問 農林水産品・食品・工芸品のブランド化、海外展開、大学や企業等が連携した特徴ある産業の高付加価値化の検討・研究・展開状況について。

答弁 小千谷市ブランド認証米「錦の実り」に関する取組を開始。第2回世界錦鯉サミットの本県開催を目指す取組を進めている。

質問 デジタル基盤の構築の展開、民間のデジタル基盤構築のための支援体制等、現時点での検討・研究・展開状況について。

答弁 DXについて、公式LINEによる情報発信、書かない窓口の設置、また、GXについては、脱炭素設備導入促進事業に加え、消費用井戸を活用した地中熱利用の実証事業。また、住民の個人情報等はインターネットと分離し、高いセキュリティを確保している。

廣井 良宣 議員



防災について

質問 災害関連死は全ての災害で認定者以上の死者がいると推察され、対応は極めて重要な課題である。昨年12月に政府は国際的な「スフィア基準」を避難所の質向上の指針として正式に位置づけた。当市はトイレ数・居住スペース共に「今後満たすがめどは立っていない」との回答だが見解は。

答弁 中越大震災と同規模の災害を想定し、指定避難所と避難者数を考慮するとスフィア基準を満たす居住スペースは確保できない。そのため町内集会施設を避難所にしたりにして協力を働き掛けていく。

質問 災害用トイレにはトイレカーや簡易トイレ、携帯トイレなどがある。道路や下水道施設が被害を受けた場合に備え、様々な想定と準備をすべきでは。

答弁 スフィア基準では平均的なトイレの使用回数を1日5回とし

ているが、中越大震災の実績を基に想定する避難者数は市民の7割にあたる2万2千人と県内でも高い設定。昨年度末現在の当市の状況は避難者1人当たり約1回の使用に対応できる程度。今年度は組立式個室トイレ14基を約700万円で購入したが、今後も他自治体と相互の備蓄トイレを提供し合うことを検討し確保に努める。また防災訓練や出前講座等を通じ、一層の自助の取組を呼び掛けていく。

質問 市内の小中学校では災害時に適切な行動がとれるよう指導・訓練を実施中だが、大人がいない登下校時や一人での在宅時に自ら判断し行動することができるとの。

教育長答弁 小学校では消防士やそなえ館職員、当時小学生で中越大震災を経験した地域住民を講師として地域と連携した学習を展開。中学校ではおぢや防災塾を通じ災害への備えや家族、地域の一員として果たすべき役割について学ぶ機会を確保。小学生には「危険を回避し自ら命を守る行動を取る」、中学生には「自分の安全を確保した上で、家族や地域の一員として行動する力」を育成している。

本会議をインターネット中継しています

市議会ホームページからインターネットライブ中継でご覧いただけます。
本会議当日のライブ中継のほか、本会議終了後概ね1週間後には、録画映像も配信しています。
市政への一般質問で各議員の顔写真の下に二次元コードを掲載しています。
スマートフォンやタブレット端末で読み取ると、各議員の一般質問の録画中継をご覧いただけます。
また、会議録も市議会ホームページで閲覧できます。
(令和7年第3回定例会の会議録掲載は、11月末頃となります。)

URL <https://www.city.ojiya.niigata.jp/site/gikai/>

小千谷市議会

検索

市議会を傍聴してみませんか

第4回定例会開催予定

11月28日(金) 第1日 議案上程説明
12月2日(火)～12月4日(木) 各常任委員会で審査
12月17日(水) 第2日 一般質問
12月18日(木) 予備日 一般質問
(質問者が多い場合に開催)
12月22日(月) 最終日 委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。
各委員会の日程、団体での議会傍聴については議会事務局(Tel.83-3505)へお問い合わせください。
委員会の傍聴については、あらかじめ議会事務局へお申し出ください。



導入に至った経緯や実際の予約方法、乗降ポイントの設置などの実証運行の内容を確認しました。

「イコテ」は、AIを活用した予約型オンデマンド交通サービスです。スマホや電話で乗車予約ができ、地域の移動手段として利便性向上と交通空白地域の解消を目指しています。

開催日 令和7年8月8日

AIオンデマンド交通の勉強会を開催しました

民生産業委員会



不登校児童生徒の学びの多様化の支援に関する相談・助言を行う文部科学省から委嘱されたマイスターのひとりである加納博明氏を迎え、全国の不登校児童生徒の実態や学びの多様化学校での取り組みや事例を踏まえての勉強会となりました。

開催日 令和7年8月22日
講師 学校法人西濃学園
学園長 加納博明氏

不登校児童生徒の現状と対策について勉強会を開催しました

総務文教委員会



議会報告会および 意見交換会

市民の議会活動への参画を促進し、市民の意向を市政に反映することを目的に、どなたでもご参加いただける、オープンな形式で開催いたします。

開催日時

令和7年11月8日（土） 午後1時30分～午後3時

会場

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点 ホントカ。 フロートエリア及び和アンカー

議会報告会

議会で審議された内容を報告し、市政の課題や議会の活動状況を共有します。

意見交換会

①みんなで考えよう！

これからの公共施設のあり方

②小千谷市の観光のこれから

～観光資源の再発見～

その他

市議会議員16名が出席予定。

事前申し込み不要。

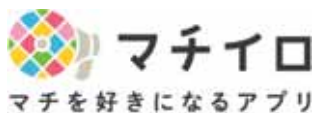
問い合わせ

議会事務局 TEL 83-3505

どなたでもお気軽にお越しください



市議会だよりをアプリで配信中



スマートフォンやタブレット端末で使える無料アプリ「マチイロ」で配信中です。ぜひご利用ください。



Android用



iPhone用

編集後記

決算議会といわれる第3回定例会が終わりました。連続する物価高騰、収入が目減りする中でどのように財政が使われたか議論されました。

また、市民の暮らしや営業に猛暑が与えた影響なども一般質問のなかで質問がいくつかありました。また、柏崎刈羽原発の再稼働に関しても何人かから問われました。今回の質問は12人が登壇しました。様々な視点から市民の生活向上を求めている質問だったと思います。多いほど市民の声が市政に反映されます。議論は、本会議場だけではなく、2つの常任委員会が大会議室でも行われました。インターネット中継はまだありませんが傍聴はできますので関心のある方は是非おいで下さい。今夏のように熱い議論が見られます。

編集委員 内山 博志